

平成 21 年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります、このような取組を通して、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 21 年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

調査の概要

1 目的

ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日

平成 21 年 4 月 21 日（火）

3 調査対象

第 3 学年

4 本校の参加状況

国語 A	136 人	国語 B	136 人
数学 A	137 人	数学 B	139 人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の 2 教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」などの分析を併せて記載した。

調査結果の概要

1 国語

全体的な傾向

- ・国語A（知識）の平均正答率は81.2％で、全国平均よりおよそ4％高くなっている。
- ・国語B（活用）の平均正答率は79.1％で、全国平均よりは5％弱高くなっている。意欲的に学習に取り組んでいる様子が表れている。

<分類・区分別集計結果>

【国語A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率（％）		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	4	91.0	88.8	86.8
	書くこと	3	71.6	68.1	64.6
	読むこと	10	78.9	77.1	75.7
	言語事項	17	80.4	76.7	76.0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	4	91.0	88.8	86.8
	書く能力	3	71.6	68.1	64.6
	読む能力	10	78.9	77.1	75.7
	言語についての知識・理解・技能	17	80.4	76.7	76.0
問題形式	選択式	19	80.2	77.9	76.0
	短答式	14	82.5	78.4	78.4
	記述式	0			

【国語B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率（％）		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	5	76.2	74.5	72.5
	読むこと	11	79.1	76.5	74.5
	言語事項	0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	74.8	73.1	70.8
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	5	76.2	74.5	72.5
	読む能力	11	79.1	76.5	74.5
	言語についての知識・理解・技能	0			
問題形式	選択式	3	76.2	72.3	70.2
	短答式	3	87.0	83.9	82.0
	記述式	5	76.2	74.5	72.5

1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

• ...課題があるもの

【話すこと・聞くこと】

○ 90%を超える正答率を得ることができた。スピーチ・ディベート・討論などの取り組みが成果を上げている。

【書くこと】

- A、Bいずれの問題においても書くことでは全国の平均を上回ることができた。
- 「必要な情報を読み取ってまとめる力」で栃木県の平均に及ばなかった。

【読むこと】

○ 平均正答率は80%をわずかに下回るが、読む力は十分身に付いていると考えられる。

- 古文の解釈において、全国平均を下回る結果となり、古文学習の充実が望まれる。

【言語事項】

- 平均正答率は80%を越え、十分定着していると考えられる。
- 漢字の訓を書かせる問題の正答率が55%程度で有り、課題である。

【その他】

- 考えをまとめて記述させる問題でも87.5%の正答率を得ることができた。

国語に関する生徒質問紙調査の状況

• ...課題があるもの

傾向

- 国語の学習に対して「内容がよくわかりますか」の問いに対して肯定的な解答をしている生徒が多く(82.9%)、十分に理解して学習に取り組む様子がうかがえる。
- 「読書が好きですか」の問いには80.5%が肯定的な解答をしていることから、よく読書をしていることがわかる。
- 自分の考えを発表するときうまく伝わるように工夫したり、理由がわかるように書いたりする生徒が少ない。

指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

相手の意図を考えながら聞かせる機会を増やし、わかりやすく伝えるための方法を指導していく必要がある。普段の授業の際に討論や話し合いの機会を増やすなどの方法で改善していきたい。

【書くこと】

意見文を書かせる機会を増やし、グラフや図を効果的に用いながら書かせるようにしていく必要がある。

【読むこと】

古文をはじめとした多様な文章に数多くふれさせることで、必要に応じた読み方が身に付くようにしていく。

【言語事項】

日常生活の中で積極的に漢字を使うよう意識させる。

【その他】

読書指導が効果を上げている。さらに充実させていきたい。

2 数学

全体的な傾向

- ・ 数学A（知識）の平均正答率は67.8％で、全国・県平均より5％弱高くなっている。
- ・ 数学B（活用）の平均正答率は61.7％で、全国平均よりは5％弱、県平均よりは4％弱高くなっている。落ち着いた学習環境の中で学習に取り組んでいる成果が表われている。

<分類・区分別集計結果>

【数学A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率（％）		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	11	69.1	67.7	67.3
	図形	11	71.9	66.7	64.6
	数量関係	11	62.5	57.7	56.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な表現・処理	9	68.6	64.5	63.7
	数量・図形についての知識・理解	24	67.5	63.9	62.3
問題形式	選択式	20	66.0	62.3	60.5
	短答式	13	70.6	66.7	66.1
	記述式	0			

【数学B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率（％）		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	3	67.9	63.0	61.4
	図形	6	62.0	59.3	57.5
	数量関係	6	58.4	54.7	54.1
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	12	57.7	53.7	52.4
	数学的な表現・処理	2	71.6	71.0	70.1
	数量・図形についての知識・理解	1	90.6	86.4	85.3
問題形式	選択式	6	65.5	63.3	61.6
	短答式	4	73.4	71.1	70.3
	記述式	5	47.9	41.7	40.6

1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

• ...課題があるもの

【数と式】

- A 等式の変形に関する問題の正答率が全国・県平均より低く、基本的な内容が理解されていない点が課題である。

【図形】

- A 線対称・点対称に関する問題の正答率が全国・県平均より15%高くなっている。
- B 三角形の合同を利用した証明問題の正答率が全国・県平均より低く、証明問題に対して苦手意識を持っている生徒が多いことも課題である。

【数量関係】

- A 確率に関する問題の正答率が15%以上高くなっている。
- A 全国・県平均より5%弱高い正答率となっているが、反比例に関する知識理解率が50%を下回っている。

【その他】

- 全国・県平均に比べて正答率は高くなっているが、無回答率が平均より高くなっている問題も見られ、学習への意欲がない生徒への指導が今後の課題と思われる。

数学に関する生徒質問紙調査の状況

• ...課題があるもの

傾向

- 「数学ができるようになりたい」「数学の授業で学習したことは、将来社会にでたときに役立つと思いますか」の質問に対して肯定的な回答をしている生徒が多い。学ぼうとする必要性が良く理解できている。
- 「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問に対して肯定的な回答をしている生徒が少ない。身近な題材を利用した導入や活用を今まで以上に取り上げていく必要があると思われる。

指導改善のポイント

【数と式】

- 正の数と負の数の計算や文字式の計算など、基本的な計算のしかたについて十分理解を深めた上で、反復練習を行い、より確実な定着を図る。
- 条件にあった式を作るなど、問題解決の見通しから数学的な表現力を高めるために、文字式の知識や技能を活用して身近な事象や数量の関係などをとらえる機会を充実させる。

【図形】

- 図形の位置関係や基本的な性質の理解を深めるために、観察や実験、具体物操作やコンピュータによるシミュレーションなどを積極的に導入し、実感が伴う、視覚的に理解できるような活動を充実させる

【数量関係】

- 日常的な場面の事象をグラフにしたり、グラフから情報を読み取ったりする活動を多く取り入れ、関数的な見方・考え方に慣れ、数学的に処理する力を高める。

【その他】

- より効果的な習熟度別学習の工夫改善とともに、授業での学習のしかたの徹底、宿題や課題など家庭学習の充実を図ることで、基礎・基本の確実な定着をねらう。
- 生徒の数学に対する関心意欲を高めるために、数学的な活動や問題解決的な学習を積極的に取り入れる。

3 生徒質問紙調査

●…課題があるもの

傾向

- 「朝食を毎日食べていますか」の項目では、「毎日食べる」の割合が、91.3%で、全国92.4%との比較で1.1ポイント下回る。
- 「学校に持って行くものを前日かその日の朝に確かめていますか」の質問に対して肯定的な回答は、90.6%で、栃木県の84.7%、全国の83.9%と比較して極めて高い。学習用具を忘れないように心がけていることがわかる。
- 「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか」の質問に対して肯定的な回答は60.5%で、全国(62.0%)との比較では1.5ポイント低い。間違いを恐れて発言を控えてしまう生徒像がうかがえる。
- 「自分にはよいところがありますか」の質問に肯定的な回答をしている生徒は72.6%であり、栃木県の64.9%、全国の61.2%と比較して極めて高い。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に肯定的な回答をしているのは68.4%であり、全国の71.0%に比べて1.6ポイント低い。
- 「携帯電話で通話やメールをしていますか」の質問に「毎日している」「ときどきしている」の回答を合わせると66.2%となり、全国の54.4%と比較して極めて高い。
- 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の質問では1時間以上学習する生徒の割合が79.9%で全国の65.2%を大きく上回る。また、学校が休みの日に2時間以上学習する生徒の割合は60.4%で全国の37.1%を大きく上回る。本校の生徒は家庭学習への取り組みが定着していることがわかる。
- 「家や図書館で、普段(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間読書を読みますか」の質問に「まったくしない」と回答している生徒が全国との比較で14.9ポイント低い(本校24.5%、全国39.4%)。本校生徒は、よく本を読んでいることがわかる。
- 「家で計画を立てて勉強していますか」の質問に肯定的な回答をしているのは46.8%で全国の37.7%と比較して高い。本校生が計画的に学習する様子が見えてくる。
- 「家でテストで間違えた問題について、間違えたところをあとで勉強していますか」の問いには53.9%が肯定的な回答をしている。全国の38.1%よりも15.8ポイント高い。
- 「学校の規則を守っていますか」の問いには92.8%が肯定的な回答をしている。全国の88.7%との比較で4.1ポイント高い。
- 「近所の人に会ったときあいさつをしていますか」の質問に肯定的な回答をしているのは79.5%で、全国の83.0%よりも3.5ポイント低い。

改善策

食育便りや保護者会で「朝食を摂ることの大切さ」を生徒および保護者に伝えていく必要がある。

携帯電話を持たせることの危険性を学校便りなどを通して保護者に伝えていく。また、既に携帯電話を持っている生徒には、使い方についての指導を継続していく。

あいさつについては、生徒会を中心にあいさつ運動を展開しているが、今後も強化、継続していく必要がある。